

厚木愛甲環境施設組合事業懇話会先進施設視察

平成 26 年度第 2 回懇話会は、東京たま広域資源循環組合が管理運営する日の出町にある二ツ塚処分場とエコセメント化施設にお伺いいたしました。

同組合は、東京多摩地区 25 市 1 町で構成・運営されており、約 400 万人におよぶ一般廃棄物最終処分施設である二ツ塚処分場や、清掃工場から排出される焼却残さをセメントの原料としてリサイクルし、「エコセメント」を製造するエコセメント化施設の設置及び管理運営を行っています。

当日は、事業概要の説明を受けた後、環境対策や施設の運営に係る活発な質疑があり、質疑終了後に各施設の稼働の状況など、施設の諸般にわたる説明を受けながら見学を行いました。

1 日 時 平成 26 年 11 月 21 日（金） 14 : 00 ~ 15 : 30

2 参加者 厚木愛甲環境施設組合事業懇話会委員 8 人

二ツ塚処分場施設概要

施設名称	二ツ塚処分場
所在地	日の出町大字大久野 7 6 4 2
竣工	平成 14 年度（第 2 期）
埋立容量	約 370 万 m ³
埋立進捗	率 44.6%（平成 25 年度末） 平成 25 年度年間進捗率 0.1%未満
建設費	約 500 億円（用地・補償含む）
敷地面積	約 59.1ha
開発面積	約 33.3ha （埋立地 18.4ha、管理施設 14.9ha）
埋立期間	平成 10 年 1 月～平成 40 年 3 月

エコセメント化施設概要

施設名称	エコセメント化施設
所在地	二ツ塚処分場内
竣工	平成 18 年 7 月（稼働）
処理量	焼却残さ等の処理 約 300 t / 日 エコセメント生産量 約 430t/日
処理対象物	焼却残さ、溶融飛灰、 平成 12 年 9 月以降埋め立てられた焼却残さの再処理
建設費	272 億円
敷地面積	約 4.6ha
維持管理費	約 26.4 億円/年間



【主な質疑応答】（概要）

Q 環境に配慮した最終処分場施設とお見受けしましたが、地下水の検査結果は、住民に対してどのように説明しているのですか。

A 水質等の検査結果については、地元の対策委員会へ四半期に一回報告会を開催し説明をしています。また、地元の町役場や主要施設及びホームページに毎月掲示しています。

Q 平成12年度から18年度にかけて、不燃ごみが大分減量していますが、一番効果がある対策としては何があったのですか。

A 多摩地域における住民の皆様の減量に対する取り組みが進んだことと思われます。ごみの有料化が進んだ時期がその頃でした。また、容器リサイクル法が施行され、リサイクルの仕組みが行政の中に取り込まれたのがその頃でした。

Q 搬入車による交通障害や排ガス問題等の弊害は発生していますか。

A 地元の自治体及び対策委員会と協定を結んでおり、搬出入車両が出入りする時間帯を制限しているほか、交通量の上限を定めています。それらを遵守しご理解をいただいています。

Q 搬出入車両の上限台数は。

A 焼却灰の搬入車両は、10t車で一日40台程度です。

Q 搬出入車両の排ガスについて、アセスメント調査による実態を教えてください。

A 環境アセスメント調査の中では、搬出入車両の排ガスによる公害の発生については、極めて影響が少ない調査評価結果が出ています。その結果は公表しており、市民の皆様にもご承認いただいていると理解しています。

Q ごみの有料化について、詳しく教えてください。

A 25市1町それぞれの自治体が独自の判断で行っています。平成12年頃から徐々に始まり、今年から有料化する市もあります。まだ有料化していない自治体もありますが、徐々に資源化が進んでいる状況にあります。

Q この先、最終処分場が数十年も使えることになると思われませんが、計画では埋立終了は何年度になるのですか。

A 当初の計画では、平成10年から15～16年間程度ということで、届出上は平成25年12月まででしたが、エコセメント化施設が稼動したことにより、現在44.7%

の埋立率で毎年 0.1%増えている状況です。

あくまでエコセメント化施設がきちんと稼動して、ごみの減量化が引き続き進んでいくことが前提としてあり、今後、埋立のスピードが速まる要因等はありませんが、現在の届出の上では、平成 40 年 3 月までとなっています。

Q 東京たま広域資源循環組合に日の出町やあきる野市などが参加していませんが、それらの市町から出たごみは、どのように処理されているのですか。

A 日の出町、あきる野市、檜原村、奥多摩町の 4 市町村で構成する一部事務組合「西秋川衛生組合」によって、あきる野市にある中間処理施設及び最終処分場において処理を行っています。

Q ごみが原料だからエコセメントの価格は安いのでは。

A 普通のセメント工場は、この工場の 10 倍程度の規模ですので、エコセメントの製造コストとしては、通常のセメントのコストより高くなります。また、環境面に配慮したコンパクトな施設となっています。

出荷価格を調整して通常のセメントと同等な価格で流通しています。

Q 当施設において防災訓練等は実施していますか。

A 防災・消防訓練等を年に 1～2 回程度実施し危機管理に努めています。

Q 貴組合のホームページからの資料では、25 市 1 町のうちで 10 市において不燃物の搬入を行っていませんが、どのように処分されているのですか。

A 各市独自により、民間委託により資源化を図っていると聞いています。